



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「私たち中小企業家が長崎を牽引していく！」
～長崎県を活性化するために、会勢700名を達成しよう～

2015年度 役員研修会 開催!!

開催日：9月26日(土) 13:30～ 会場：諫早観光ホテル 道具屋



松尾代表理事、金井副代表理事、吉澤経営・労務担当委員長、経験を交えた貴重な報告及び問題提起をありがとうございました。松尾さんのテーマ「同友会の歴史と理念を学ぶ」では、広範囲な視点から同友会の歴史と理念が読み取れました。改めて同友会を再認識する良い機会になったのではないのでしょうか。特に、同友会へ入会間もない人には、貴重なダイジェスト資料ではないかと思います。

金井さんの問題提起は「同友会活動を支える役員になろう」というテーマでした。ご自身をだいぶん謙遜されていましたが、金井さんご自身の経験を紹介されながら、また、中同協の書籍の例を引用して、「同友会の役員をすることによって会の良さが分かる」と問



題提起の意義を力説されました。私も役員をさせていただいていますが、多くの事柄を学びましたし、金井さんの問題提起に私も賛同です。

吉澤さんの問題提起は「同友会を活用・実践しよう」というテーマで、活動の手引きがバイブルでした。報告レジュメを作り、資料を簡潔に見やすく、分かりやすく構成されてました。お人柄が感じられる内容だったと思いました。特に、吉澤さんご自身の同友会活動と会社経営を、時系列に「不離一体シート」として表にまとめられていまして、私自身も大変刺激を受けましたし、参考にしたいと思いました。

(文責 辻村 栄蔵)

目次

2015年度 役員研修会 開催報告	1	セミナー参加報告	16
9月例会報告	3	会員活躍	17
第43回 青年経営者全国交流会 in 山梨 参加報告	10	事務局企業訪問	18
中同協 経営労働委員会 参加報告	11	入会・交代会員紹介	19
組織強化・広報・情報化全国交流会 参加報告	12	11月例会案内・第22回 経営フォーラム案内	20
中同協 社員教育委員会・共同求人合同委員会 参加報告	13	H P相互リンク募集	21
女性部会・障がい者問題担当委員会 企業訪問 参加報告	15	理事会議事録 抜粋	21
九州・沖縄ブロック 事務局長会議 参加報告	15	会員消息・会員数	22

2015年度 役員研修会

第2回目のグループディスカッションを受けて

「同友会の各種行事、特に例会について、参加率をあげるために支部で具体的に実践できる提案はなんですか？また役員としてどのようにかわりますか？」

■ 第1グループ

- 例会の質を上げるために
→運営方法(座長・室長をたてる)、シミュレーションの質を上げる(チェックリストを作成する)、グループ長の質をあげる、シミュレーション参加者をグループ長とする
- 例会返信率を高めるために
→委員会や小グループでの活動を行う、電話で出欠を確認する際に例会の内容まで伝え再度案内する、参加しやすい日程を調整する
- 事務局で報告者リストを作成する

■ 第2グループ

- グループでディスカッションの質を上げるためにグループ長研修を行う
- 小グループ活動を行う事で役員の負担を軽減する
- 会員さんが参加できる企画を検討するなど接点を増やす
- 出席されない会員さんに対してスポンサーと一緒に企業訪問を行う

■ 第3グループ

- 島原支部のグループ制を導入してサポート体制を整え、参加率を上げる
- グループをたくさんつくとまとめる人材が少なくなる可能性があるので会員のお世話役的な人を一人ひとりにつけ、新入会員が出席しやすい環境をつくる
- ランチ会、企業訪問など月1回ではなく多くのイベントを企画し参加してもらう
- 同友会の一番の学びであるグループ討論の充実のため、グループ長の教育をしっかりと行い、基本的な運営を行う

■ 第4グループ

- 委員会、グループごとに声かけを徹底する
- 例会参加時のフォローアップとしてスポンサーだけでなく役員の方が新入会員のケアにあたる
- 参加できない会員への企業訪問
- グループ長を育てるフォローアップ研修を行い全会員が熱くなるために活動の手引きを活用、読み込み、浸透させる



■ 第5グループ

- 会暦が浅い会員さんにスポットをあてるなど新しい仲間への配慮を行う
- 来ない理由、来にくい理由を聞き、入会したきっかけなどは2カ月空くと聞きにくいためスポンサー等で声をかけ、欠席の情報を役員会であげる
- 懇親会に誘うなど近い距離で話す、接する機会を増やす
- グループディスカッションが大事なのでグループ長もおのずと大事。またグループ発表も大事なので自己紹介の際などにグループ長はどなたがふさわしいか選定する

■ 第6グループ

- 基本の再確認を行う
→三つの目的、4つのスローガン等手引きを再度徹底する
- 学び
→新入会員のために入会のメリットを記載したわかりやすいマニュアルを作成する
- 実務
→企業変革支援プログラムを活用し、目標管理を行う。実務事業連携委員会などを立ち上げまねできる部分はまねをする。入会してよかったと思える同友会づくりを行う

投稿募集のご案内

DOYU ニュースでは会員の皆様の投稿を募集しております。
企業訪問や支部・地区会等の行事や取り組みなどご紹介下さい。

●文字数/約 500 字

●画像/歓迎します

☐掲載/情報広報委員会にて選考

☐投稿先/情報広報委員または同友会事務局まで

☐メール/jimu@nagasaki.doyu.jp



長崎支部 浦上地区会 例会報告

日 時	9月25日(金) 18:30
会 場	ギャラリーヘキサ
テ ー マ	創業から10年これからやるべきこと
報 告 者	(有)eプランニング 代表取締役 上村 靖 会員



創業から10年を迎える今年、上村さんの生い立ちから今までの人生を詳しく報告していただきました。独立する以前から営業や工務をしていた経験があったので、仕事を受注する自信はありましたが「現場ができないとお金は入って来ない」と指摘され、車や工具を買い揃え、一人親方に教えていただきながら、現場作業・管理・工務・営業を多忙にこなされていたそうです。

事業内容は電気設備設計、点検調査、オール電化や空調工事、床暖房工事など多岐に渡ります。電気設備工事は非常に競合が多い業界という事もあり、他社がやらないようなCATVの故障対応、携帯電話会社の中継局の土地交渉から建柱、なども手がけられています。



そんな中、2年目に建築工事で未収金が発生してしまい資金も底をつき困っていた所、面識も少ない熊本の方から個人の学資保険を崩してお金を貸していただいた話は、人間とは利己的な面もありますが、本質は他を思いやる事ができる、美しい心を持っているものだと感じました。

創業10年で感じたこれからの課題として、社員を増やし、人・もの・お金・情報を活かすマネジメントをしていきたいそうです。合気道もしておられ、先生から教えていただいた「心は穏やかに、歩みは弛まずに、辿り着くまで歩み続ける」を座右の銘とされています。合気道で心を学び仕事も一生懸命に頑張る姿勢は、倫理法人会と同友会を両輪として取り組まれている姿と重なると感じました。

家庭と仕事の両立も難しい課題ですが、自らが人としてバランスの取れた人間性を整えるのと同時に、自社の発展と、社会への貢献は我々企業の目指すべき重要なことであると感じる素晴らしい例会でした。

(文責 松野 和治)



長崎支部 出島地区会 例会報告

日 時	9月17日(木) 18:30
会 場	メルカつきまち
テ ー マ	プロフェッショナリズムへの挑戦 ～クライアントの権利を確保するために～
報 告 者	長崎清和法律事務所 共同経営者 梅本 國和 会員

高校時代、ラグビー部に所属しながら、「弁護士は、人を助ける仕事である一方、食いつぶされることもない。」と思い、弁護士になることを決意。その後、早稲田大学法学部に進学。20歳代前半を勉強で明け暮れ、24歳の時、合格率2.7%の司法試験に合格。

司法修習時代、ベテラン弁護士より「弁護士が多い都会より、弁護士が少ない地方で仕事をした方が、存



在価値が大きく、影響力が大きい。」とアドバイスを受け、生まれ故郷の長崎に戻り、弁護士をすることに。

勤務弁護士時代を3年半経て、30歳で梅本國和法律事務所を開設。開設後の弁護された事件を、いくつ



も紹介していただきました。暴力団に脅されながらも解決した民暴事件や、偽装事件、特に保険金殺人事件が印象的でした。ある女性が交際中の男性と共謀し、夫を殺害し保険金を得て、その6年後に女性の息子を殺害し保険金を得ようとした事件です。殺害した女性の国選弁護人として仕事をされ、マスコミの取材や記者会見にも対応された大きな事件でした。

その後、38歳で長崎清和法律事務所に共同経営者として参加。その頃から大学時代からの夢であった、アメリカのロースクールに留学するか悩み始めます。アメリカのロースクールは、魅力的なカリキュラムがあり弁護士としての視野を広げる事ができる。しかし今の業務をストップさせ留学するのは経済的にもリスクがある。そんな時、ある本の言葉から40歳で留学を決断しました。その言葉とは「今から20年後、あなたはやったことよりも、やらなかったことにより失



望させられるだろう。マーク・トウェイン」。

留学は、テキサス州ダラス。15カ国の法曹が集まり、大量の宿題に追われる日々だった事や、アメリカでの生活の様子や文化の違いで驚かれたエピソードも紹介いただきました。ロースクール卒業後、ダラスの法律事務所で在米日本企業の契約書の業務などの仕事をし、ニューヨーク州弁護士の試験に合格。2年2ヶ月のアメリカの生活を経て、長崎清和法律事務所に戻られました。

帰国後、国際取引などの業務もされ、アメリカの経験を生かし幅広い活躍をされています。同友会の会員として「中小企業の成長・発展のために弁護士としてどんなお手伝いができるかを学びたい」と熱く語られました。

(文責 加瀬 和利)

大村支部 例会報告

日 時	9月17日(木) 18:30
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	大丈夫、なんとかなる、気にするな ～苦悩の先に見えてきたもの、幸せを求め学び続ける～
報 告 者	(株)諫早スイミング 代表取締役 平湯 湧一 会員 (諫早支部)



経営者として様々な壁を乗り越えていく様子は、一人の人間としての生きざまとして私たちに訴えてくる



ものがあります。今回は平湯さんの生き方の一端に触れることで、経営の厳しさと経営者としての覚悟と責任を深く心に刻むことができた例会報告でした。

あることで経営環境が違う事業を引き継いだ時に立ちはだかった壁。勘と経験と度胸の「なんでできんと？」という言葉に対する「そんな社長にはついていけない」という社員の言動と経営存続の危機でした。そこで、学んだのが「左手にそろばん、右手に聖書」。お金のことも考えながら、しっかりと意思をもって動くということが、経営理念を作ることになったとのこと。

しかし、それは翌日からは机の中に埋もれてしまった。作りさえすればいいと思い、具体的にどうやるかを考えなかったことを反省し、時には「原点に戻る」ためにとんでもない行動も(笑)

そして、ある本との出会いと半年間の繰り返しの学びにより、現在の経営理念の完成に至ったとのことでした。それは、「わが社は何の為にあるのか」、「わが社が目指すもの」、そして「その為にやるべきこと」と明解な文面でした。時にはその理念に基づいた大きな決断により、より信頼を得るきっかけとなったエピソードも話していただきました。

続いてグループディスカッション。多くの参加者の感想が「これぞ同友会!」。経営理念やビジョン、経営方針を明文化して、思いを伝え続けることの大切さを確認し合い、また、経営理念は、経営者がぶれないための原点や判断基準でもあり、喜びを感じるものであるなど、多くの感想や意見を共有し学び合うことができました。

そして、人と人との信頼関係を深めるためには、お互いを知り合い、平等に相手すること、社員といっしょに経営計画書を作ったり、ホームページを作って誰にでも見られるようにするなど、思いを伝える努力も必



要であるとの気づきも持ち帰れたと思います。

紹介してくれた自社の経営方針の中の、『お客様にとってその判断は”正しい事なのか、間違っていないのか”を全ての判断基準とする』ということは、まさに、あの右手の聖書を連想させられるものでした。

平湯さんの真摯な姿や行動力の素晴らしさ、無理なものや嫌がるものにも取り組む姿勢は多くの判断基準を持って、それが、今回のテーマの『なんとかなる』の原動力だと気づかされた例会でした。

(文責 得田 稔)

諫早支部 例会報告

日 時	9月16日(水) 19:00
会 場	長崎ウエスレヤン大学
テ ー マ	私の人生の転機となった同友会 ～チャンスは突然にやってくる～
報 告 者	(有)松田メンテナンス工業 取締役 松田 卓 会員



今回は移動例会として昨年、包括協定を結び、佐藤学長が会員として在籍される長崎ウエスレヤン大学で開催されました。出席者も多く諫早支部27名、他支部12名、ゲスト37名(長崎ウエスレヤン大学の先生14名、学生18名を含む)出席者76名となり、冒頭のスローガン唱和の元気な声が会場いっぱいに響き、活気ある例会の始まりを感じました。報告者の松

田さんは、これまでに諫早支部長、経営フォーラム実行委員長等を歴任され、現在支部経営・労務委員長を務められています。

報告では自身の性格の話から始まり、青春時代の精神的苦勞、大学時代のロックバンドのドラマーとして活躍された話、そして東京で就職した印刷会社で学んだ新入社員の仕事の心構えは今回参加した学生の皆さんにとっては大変有意義な話であったと思います。

昭和57年帰郷後、地元水道関係の設備会社に入社。しかし、どうせ定年まで苦勞するなら独立して苦勞した方がましだと思い始め、次第に独立意識が強まっていき脱サラ。平成4年松田メンテナンス工業を創業。

初年度は順調でしたが、2年目から赤字となりそんな中、同友会と出会い、人生の転機となったそうです。そして、沖縄での全国大会に参加、そこで沖縄の同友会事務局から同業者を紹介していただき新規事業の高圧洗管工事を開始されました。

また、福岡同友会の志賀島経営計画特別セミナーを受講。それは厳しく辛いセミナーで二度と受けたくないと思ったそうですが、ここでの学びを实践、第一回経営計画発表会を開催。その時の感動は忘れられないそうです。しかし、自分では会社の基盤づくりをしたはずがそう簡単に業績は伸びなく低迷。苦難の経営が続きましたが、そんな倒産の危機の時にチャンスがやって来ました。浄化槽関係の会社から浄化槽のメンテナンスの移譲を受け、しばらくは順調だったものの下水道の普及により売り上げに深刻な影響が出、対策

として経費削減や銀行対策を行い、ここ数年は修理や設備投資による受注が増しているそうです。

松田さんは同友会のおかげで嫌いだった人前で話すことが出来るようになり、様々な体験交流で自己改革、それに新規事業も始めることができ、まさに人生の転機を与えてくれたと話されました。

最後に、①運が良くなる秘訣はバカ正直になること、②チャンスは突然にやってくる、それを確実にものにすること。の言葉で結ばれ、松田さんの人柄を感じた例会でした。

(文責 白濱 博隆)

島原支部 例会報告

日 時	9月14日(月) 19:00
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	今までの経営と、これからのビジョン！ ～何のために仕事をするのか～
報 告 者	(有)ワイエヌコンサル 代表取締役 横田 耕詞 会員



今回横田さんの報告を聞いて、たくさんの気づきを得ることができました。まず第一に生き方、事業が一貫しているということでした。

土地家屋調査士、幼稚園経営、農業など複数の事業を展開されておられます。しかしただ支離滅裂に事業を展開することではなく、一つの「軸」を通して事業を展開されておられます。それはご自身の人生理念である「次世代を担う子供たちのために」というテーマでした。この「人生理念」という考え方も素晴らしいと思いました。弊社にも経営理念やその類のものはあります。しかしながら自分自身がどういう生き方をして、何をもって自分自身の幸せとするのか、その指針がないことに気づかさせていただきました。より深く自己を見つめなおし自分自身の「人生理念」を創り上げたいと思います。

第二に、横田さんのお父様のお話がとても印象的でした。50歳になられたお父様は『これからは地元のためになることをする』といって立候補、町長に当選された方です。横田さんが不動産事業で土地を購入するかどうか迷った時のお父様の教えが『人助けになると思ったら買いなさい。きっとその土地はいきてくるから』とありました。これも「子ども達のために」という横田さん自身の生き方に影響を与えていると思います。親子で利他の精神が息づいていて、そして脈々と継承されている事に横田家の繁栄があるのだなと思いました。

第三は横田さんのプラス思考のすばらしさです。頼りにしていた社員さんが退職されたときも相当な

ショックがあったらと思います。しかし横田さんはこれをプラスに受けとめ、相手を責めることなく、自らの責任と捉えられる姿勢もすばらしいと思います。

横田さんは社員の退職を通じてひとつの大きな気づきを得られたそうです。それは社員のビジョンと自分のビジョン、会社のビジョンを統一して同じ方向に進んでいかなかったという点でした。横田さんがすべての苦難を前向きに、自己責任でとらえられたこそこの気づきだったと思いました。まさに度量の大きさを感じさせてくれます。私もそうできるように努力していきたいと思いました。

最後に25年カレンダーという考え方も素晴らしいと思います。横田さんが着実に夢にむかって現在進行形で進まれているのもこのカレンダーのおかげだと思いました。未来から逆算して今を生きる。早速20枚購入し社員、家族、子ども達ふくめ全員で取り組んでいきたいと思います。

(文責 中山 実津雄)



佐世保支部 例会報告

日 時	9月18日(金) 19:00
会 場	佐世保市民会館
テ ー マ	楽しく、継ぐ ～自分の会社を面白くするには～
報 告 者	(有)山崎マーク 専務取締役 山崎 秀平 会員



9月は、8月の北松浦支部の継続発表開催となりました。経営者は常に考える「事業承継」をテーマに共育委員長を務められている山崎秀平さんに報告していただきました。

「事業承継」とは、会社の経営について経営者が後継者に引き継ぐこと。事業承継には帝王学など、経営者として資質を育てる「経営継承」と、相続税・贈与税をいかに低くおさえ、かつ株式を次期経営者に引き継がせるという「資産継承」とに分かれます。中小企業家においては後者の方のみに意味していることが多いですが、経営継承も極めて重要です。

報告では、卒業後は大手広告会社に勤務されることを想定されていた大学時代、経営者である父親が町議会議員に立候補されることをきっかけに家業である山崎マークに入社することになりました。当初は、継ぐ

のはダサいといった思考でした。しかし、同友会の会員の方々との出会い・実践に刺激を受け、2015年はチャンスの神様が2つも現れたそうです。ひとつ目は、長崎がんばらんば国体、ふたつ目は初の経営計画発表会。

初の「経営理念」作成、「経営計画書」作成、「経営計画発表会」開催という“経営三種の神器”を実践されたことにより目標・方針・計画を意識するようになり、新たな事業展開が生まれたそうです。

継承者である山崎さんの報告は、経営計画書を携え第二の創業をされたように感銘を受ける会員が多かったようです。流石、山崎さんの人柄が謙遜される姿勢に大変伝わってくる内容でした。

今回の報告により、10月2日・3日の「佐世保365方式経営計画書策定セミナー」に参加される会員企業が19社になり、山崎さんの報告があつてこそだと深く感謝するとともに深くお礼を申し上げます。

(文責 豊福 和明)



北松浦支部 例会報告

日 時	9月24日(木) 19:00
会 場	サンパーク吉井
テ ー マ	経営指針書作成 ～これからのお茶業界の進む道～
報 告 者	上ノ原製茶園 代表者 上ノ原 宏二 会員

掲げておられる「茶文化の継承をしているという志を持って」との経営指針の一句、今回は日本茶の歴史からお話をいただいたのですが、平戸は日本で初めて茶の文化が伝えられた地であり、日本茶の発祥の地であるとのお話から、さらに深みを感じる言葉だと感じました。



特色として伝統的な釜炒り茶、健康志向のギャバロン茶であり、直営店の「息福」では喫茶スペースで急須



でのお茶の入れ方、飲み方の普及、オリジナルスイーツや茶漬けなどの軽食を提供されているそうです。ここでは加工に適していて香りが強い釜炒り茶の強みを生かされているとのこと。また、対面販売を強みに原点に返り、クライアントに応じたオリジナル配合の商品づくりもされています。

新規市場開拓としては、来崎される観光客向けの土産物の開発に力を入れている、オリジナル商品を出すサイクルを短くする、口コミで広がるくらいの商品を作るなどの努力をされているとのこと。土産物用のパッケージは上ノ原さんのアイデアが詰まったと



でもセンスのよいものでした。

お茶業界の現状としては、ディスカウント市場と高級化(1本30万円!)の二極化がなされてきているとのこと。日々の生活の中で身近なものであるお茶ですが、いつもとは違った視点を得ることができました。

また、平戸には現在も茶の香りに由来する地名が残っているとのこと報告もあり、経営と歴史を交えての大変有意義なお話を伺うことができました。

(文責 森川 寛子)

五島支部 例会報告

日 時	9月18日(金) 18:30
会 場	福江総合福祉保健センター
テ ー マ	マイ ライフ ～波乱万丈な人生。その先に見えた本当に大切なもの～
報 告 者	スタジオドリームエンジェル 代表者 金田 昭子 会員(長崎支部 浦上地区会)



9月例会報告は、7月に予定していた台風の影響で延期になっていた浦上地区会の金田昭子さんに再度お願いいたしました。

まずは新しく同友会の仲間に入られた平山さんのバッジ贈呈が辻支部長より行われ、五島支部でも女性会員率が少し上がりました。

その後報告に入り、金田さんが子供の頃に夢見た美



容のお仕事に就いてからのことや、旦那様の家業が時代の変遷とともに衰退し、別事業に転換したものの結果が出ずご主人が他界されてしまったこと、極めつけにはご息子が24歳という若さでガンに侵され亡くなられたことなど、ご自身の人生を包み隠さず報告して

いただきました。まさに波乱万丈な人生において、経験してこられた美容のお仕事も、考えてみると健康がベースになっていることに気づき、現在は健康のお仕事にも取り組まれているそうです。

グループディスカッションでは、様々なことがあった中、常に前を向き仕事と家庭に取り組んでこられた

金田さんの強さはどこからくるのだろうというお話も出ていました。経営者として会社を守ること、家庭人として家庭を守ることが改めて考えさせられた例会でもあったのではないかと思います。

(文責 勝本 政裕)

青年経営者会 例会報告

日 時	9月28日(木) 19:00
会 場	かりーによ
テ ー マ	独立、起業、これからの夢 ～リアルな独立起業を青経で議論し、共有協力できるように～
報 告 者	飛田 精一 氏



飛田精一さんを報告者に迎えて、独立起業への流れを報告してもらいました。

起業するにあたっての飛田さんの仕事への想い、新しい会社設立のビジョン、情熱を話していただき、それについて参加者の方にも率直な意見を聞かせてもらいました。「やればできる。」「頑張ってください。」「のような月並みな言葉ではなく、厳しい意見が多く出ました。」「事業計画をもっと明確に。」「一人ではすぐに限界がきてしまう。社員を雇用していくにはどれだけの売上を確保していけばいいのか。」「顧客開拓の具体的なモデルが見えない。」「などの鋭い指摘等々です。それを



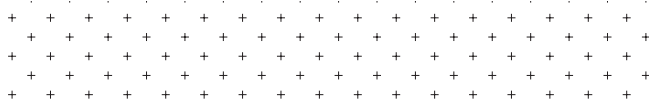
聞いていて私も自分が指摘されているように思い、反省しました。私も独立当時を思い返しましたが、具体的なビジョンも計算もなく、下請けの仕事を詰め込み、ただただ昼も夜も休みなく仕事をこなしていた記憶があります。

また飛田さんは、今までは会社には守られていたと痛感したと話されていました。そして皆さんの意見をきちんとメモにとり、真摯に聞かれていました。

飛田さんは、現在は同友会も青年経営者会も退会されていますが、会員として数年同じ時間を過ごしてきた仲間であるので、これからどのような協力ができるのかが、今後の青年経営者会の課題だと思います。そして早く復会していただきたいと思います。

今後の飛田精一さんの活躍を期待し、そして同友会、青年経営者会、長崎の経済がさらに活性化していくことを期待しております。

(文責 橋本 裕次郎)



V・ファーレン長崎



応援マツト

ダスキン栄進 電話 095-823-7633

瀧川 隆 会員 (長崎支部 出島地区会)

テレビCM撮影 ¥50,000 ~

LINK

株式会社リンク
長崎市興善町4-1 興善ビル7階
TEL.095-820-8344 pref@link-co.jp

会員企業様のプロモーションDVDを作成します。(撮影5時間)

¥200,000

別途、ドローン(ラジコンヘリ)による空撮
¥30,000

※税別



島崎 和紀 会員 (大村支部)

第43回 青年経営者全国交流会 in 山梨 参加報告

開催日：9月10・11日(木・金) 会場：甲府富士屋ホテル他



第4分科会

社員と共に日本一の看板屋をめざす！

ものづくりは人づくり
社員の成長が会社の発展につながる

(株)ブンカ巧芸社 代表取締役社長 **峯元 信明 氏**
(鹿児島同友会)

青年経営者会 会長 山口 善也

青全交 in 山梨は「人は石垣 人は城、今こそ実践！ 人間尊重の経営」というスローガンのもと1250名の参加者で開催されました。

峯元さんは専務だった2007年に同友会に入会され翌年に経営指針セミナーを受講。2009年に経営理念・経営指針書を作成。その後も共同求人や社員共育などの同友会活動に積極的に参加され、2011年2012年と2年続けて経営フォーラムの実行委員長を務められるなど、大いに活躍されています。峯元さんは同友会で学んだ事を即実践してきたからこそ、人を生かす経営のヒントが見えてきたと話されています。

家業の看板の企画・製作・施工事業をおこなっているブンカ巧芸社へ入社し、当時は前社長のワンマン経営によって業績は良かったものの、社内の雰囲気は悪く(離職率が高い、営業と工場の仲が悪い、3Sが出来ていない、言われたことしかしない)など多くの問題がありましたが、部署間の連帯の悪さを解消しようと社内に委員会制度を導入。最初は多くの社員が反対していましたが少しずつ社員のまとまりや仲間意識が強くなるなどの改善がみられ、今では本社と営業所を併せ7つの委員会活動がおこなわれ、三つの目的「自分たちの会社は、自分たちで良くする」「役割が人を育てる」「すべての部署の連携の基、一つの看板が完成する」この目的をまもり多くの成果をあげられています。トップダウンではなくボトムアップの経営をされてい



る峯元さんの社員を信じ任せて一緒に輪の中に入ることで、会社を良くしていく仕組みを学べた報告でした。

続いては①自立型社員を育てるために自社で取り組んでいることは何ですか。②経営者と社員が信頼関係を築くために何が必要と考えますか。という2つのテーマで、グループ討論をおこないました。多くの意見が出された中で、理念・指針・考え方などしっかりしたフィロソフィーを社員に浸透させ、それに基づいた行動をとれる会社づくりが大切ではないかという意見にまとまりました。

二日目は(株)フレアス 代表取締役 澤登拓さんの「弱者集団で高齢化社会に挑む」というテーマでの記念講演でした。病弱だった学生時代に中国医学に出会い、その後2000年に自宅のあった山梨県で在宅マッサージ業を創業され、開業当時は寝る間も惜しんで働きますが、消費者金融からの借入で資金をつなぐような日々でした。2002年に同友会に入会され貪欲にまなび、資金繰りのやり方や経営理念の大切さなど多くの学びの中から「たとえ弱者集団であっても経営理念と社員一人ひとりの志を明確にすることで、逆境を跳ね返せる」と信じ事業を拡大され今では在宅医療マッサージ分野で日本一の会社で成長され、今後は世界も視野に事業をされていくとの事でした。高齢化社会での自社の存在意義を確信し「弱者の戦略」をたて経営されている澤登さんの講演を聞き弱い立場でもオンリーワンを見つけることで、成長していくことが出来ることを学びました。

二日目午後からは青年部連絡会が開催され、議題1の青全交の感想・成果・課題等が発表され続いて、来年の石川での青全交についての報告が山下実行委員長からありました。議題2の活動内容や今後の運営についての報告があり議題3のグループ討論「同友会らしい企業実践につなぐ青年部活動のあり方」というテーマで討論をおこないました。

社員と共に輝く企業を目指して

「友達がいなくなる」から
「すごい仕事をします」へ

(株)弘新機工 代表取締役 **渡辺 修士 氏**
(新潟同友会)

青年経営者会 副会長 吉川 裕也

初めて青年経営者全国交流会に参加させていただきました。

トラック等の大型車両、油圧機器修理、レンタカー事業を営んでおり、会社や社員が幸せになるにはどういった経営をすればよいかを中心に報告されました。

最初の頃は社員さんとの折り合いが悪く、孤軍奮闘の日々で、社員さんから協力を得るまで相当な苦勞をされたそうです。そんなある日、社員から「この会社にいるとプライベートの時間が無くなって友達がいなくなる」と言われたそうです。振り返ると、朝から晩まで仕事漬けの日々であること事に気づき、業務の円滑化を図ることに。日報や一日四回のミーティング、社員同士が共に育つようにとブラザー・シスター制度を取り入れ作業効率が上がり残業を減らす事に成功、今では社内に委員会活動を取り入れ、社員の不満を満足へ変えることに注力されているそうです。今年はワークライフバランスを達成し成果を上げようという目標に向かって日々社員と一緒に奮闘されています。

その後は、①自社の社員さんが生き生きと働くためには何が必要ですか。②初めての取り組みを社員さんとどう共有しますか。という2つのテーマに沿ってグループディスカッションを行いました。①では、スタッフ同士のコミュニケーションが必要という意見や、夢や会社の方向性を見出し、社員に伝え共有する



事が必要などの意見があがり、②では、目的を紙に書いて意味があるという事を伝えているということや、お客さんの想いや感想を社員に伝えているなどの意見があがり盛会の内に終了しました。

また、二日目は(株)フレアス 代表取締役 澤登拓さんによる『「弱者集団」で高齢化社会に挑む』というテーマでの記念講演でした。

同友会に入会して経営のノウハウを学び、同友会の三つの目的を基に理念を作成、様々な学びを経て、今では事業を全国展開するまでになったということでした。社員共育を始め事業戦略など新しいことに常に挑戦されている澤登さんですが、講演の最後に「これからは青年経営者が道をひらいて、未来を拓くんだ」と言われた言葉が印象的でした。

私自身、今回初めて全国大会に参加して新たな学びであったり気づきを得ました。全国の経営者の方々の考えや想いに少なからず触れることができ、いい刺激を受けることもできましたし、自社でも取り入れられる事は取り入れたいといった事も多々ありました。この学びや気づきを糧に自社を盛り上げていければと思うとともに、青年経営者会をもっと盛り上げ活性化できればと思います。

中同協 経営労働委員会 参加報告

開催日：8月21日(金) 会場：鳥取 米子コンベンションセンター

中同協の「労使見解」発表40年を迎え、同友会のいう『人を生かす経営』の総合実践を進め、地域の雇用と暮らしを守り、強靱な企業づくりが、中小企業に於いて重要となっています。同友会の学びあい、励ましあいの活動が特に求められる中、全国から54名の委員さんが出席し開催されました。

中同協中山経営労働委員長(福岡)のもと、同友会らしい経営指針に基づく総合実践に向けて、①経営指針成文化・実践運動担当玄地さん(宮城)②企業変革支援プログラム担当山田さん(大阪)③労使見解普及担当青木さん(愛知)④労使関係の今日的課題担当林さん(香

川)の4氏から方針の発表がありました。方針や取り組みを要約すると、

- ①成文化と実践運動の推進で「経営者の自己変革」を促す。
- ②企業変革支援プログラムパート1のセルフ・アセスメントをe.doyuに登録しましょう。
- ③「経営指針作成の手引き」を改訂し、「経営指針作成と実践の手引き」を2016年に発行する。
- ④「就業規則ガイドライン」作成のプロジェクトを発足し、議論と交流を進めるとなります。これら4つが運動のポイントとなります。



各同友会との情報交換では、長崎同友会の第4次ビジョンに対する具体策について、4つの気づきをいただきました。

- ・楽しい成文化の学習会を実施し、発表会が出来るところまでやりましょう。
- ・企業変革支援プログラムを活用し、連続講座を開催しましょう。

- ・経営指針では、労働環境のビジョンを含め、トータルで考えましょう。
- ・手引きは、経営を支援するものだから、難しいのが当たり前、しかし経営はもっと難しい。

長崎同友会では、現在4つの支部で経営指針作成の学習会が行われています。佐世保支部は、今年7社の経営計画発表会が開催され、毎月開催される勢いです。また大村支部、諫早支部、島原支部でも取組みが強化されています。最大会員数の長崎支部の取組みが待たれるところです。同友会活動の基本の学びあいに、県委員会も積極的に関わっていきたいと思います。

5年前になりますが、私は同友会に助けていただきました。あの感動を出会った経営者の方に伝えることが、私の運動の原点です。学びを自社で実践し成果を出し、同友会に少しでも還流することが出来たらいいなと思っています。以上参加報告といたします。

(文責 経営・労務担当委員長 吉澤 健)

組織強化・広報・情報化全国交流会 参加報告

開催日：8月26・27日(水・木) 会場：東京 アルカディア市ヶ谷

増強と広報・情報化がどのように関わるのか合計7名の方から報告、問題提起をいただき2日間学んできました。以下抜粋して報告します。

<中同協 広浜幹事長より>

日本の先頭にたって日本全国をけん引しよう

- ・「量は質を兼ねる」という言葉があるように、増強の「増」は大切な事
- ・空白地域を埋める対策、全体の組織率を見ながら動いていくことが大切

総じて、増強は総合力が問われるため具体的な行動を起こさないといけない

<兵庫同友会 藤谷副代表理事より>

- ・2014年から「支部活性化指数」を取り入れ、各支部(11支部51ブロック)の参加状況を数字で科学的に検証を行う

※支部活性化指数=会員増加指数+会員減少指数+平均参加率

会員増加(減少)指数=期首会員数を100とした会員増加(減少率)

上位の支部には報奨金を進呈(予算化)

- ・兵庫同友会のPDCAサイクルについて

C…見える化する(支部活性化指数)

A…共有化、継続化する。支部活動の手引きへ落としこむ

P…支部、ブロック会の方針へ活用、展開する



D…「やろ化」する(関西弁)

- ・入会1ヶ月の会員にはフェイスシートを作成いただき、同友会での目標、学びたい事を明確にする
- ・退会防止=組織強化、これは企業づくりにも同じ事が言える
- ・成果=戦略×仕組み×現場力
仕組みとは ①イベント(全国大会)やカリスマ(代表理事など)に頼らない増強 ②改善、継続性がある仕組みづくり ③事務局に頼らない=会員の自主性
現場力とは ①一般会員の学びが役に立っているか ②役員研修会の内容 ③支部長、ブロック長のパッション

<グループディスカッションより>

- ・会員が少ない支部は在籍する事務局員も少なくなり、企画等ができない→自主的な増強が必要
- ・委員会等で毎回組織率を提示し空白地域等を確認

する

- 支部によって考え方、取り組み方が違うためバラバラになる→県でガイドラインを作成する
- 新入会員のオリエンテーションを必ず開催し、理念を共有する(会社経営も同じ)
- 自分の同友会、自分の支部という意識を会員一人一人が持つべき→役員会、例会等支部行事は会員の自主運営
- 今後の増強のキーワードは「青年」と「女性」
- 社会性、人間性、科学性を持ち、役員が歩く広告塔にならないといけない→労使見解、経営指針等

<東京同友会 三宅代表理事より>

- 政策渉外本部長、代表理事談話、東京同友会としての見解の3つを使い分け、プレスリリースや記者懇談会を随時開催。その結果マスコミから一目置かれる存在に
- 会外、会内にしっかりとした情報を広報することで力が付き、増強に繋がる

<中村中同協副会長 最終的なまとめとして>

今後2019年中同協50周年5万名達成に向けて各地同友会が毎年3%の純増をしないと達成できない。昨年は全体で2%台だった。増強で組織を強固なものにすることで財政も安定するはず。広報・情報・報道を三位一体と位置付け各種懇談会を開催すべき。各地

同友会HPを充実させe.doyu等で声を集めその情報を発信することが大事。企業活動においても同じはず。自社を広報し新規顧客等開拓しているはず。新入社員のオリエンテーションも同様。新入会員にもオリエンテーションを行い理念を共有すべき。そのために会員が自主運営に力をいれなければならない。誰のための同友会なのかを認識する必要がある。「量は質を保証する」今後各地増強活動をよろしくお願いします。

<今回の気付き、実践したい点>

全体を通して「何のための、誰のための同友会なのか」が大きなキーワードだと感じました。情報を広報する事でその目的が明確にわかり、同友会理念や考え方が広がり、深まっていく。「自分の会社」として企業づくりを行うように、自主運営を行い「自分の同友会」をつくっていく。そこに同じ意思を持った仲間が集まりまた強い同友会になっていくサイクルがあるはずです。事務局として求められる専門的な事に力点を置き日常の活動をサポートしていきたいと思います。

兵庫同友会から「支部活動の手引き」をいただきました。長崎同友会の「活動の手引き」に新たなガイドラインとして付加できる要素もたくさんあります。役員の皆様と協議しながら進化させていきたいと思っています。

(文責 事務局 峰 圭太)

中同協 社員教育委員会・共同求人合同委員会 参加報告

開催日：8月27日(木) 会場：東京 内海

●開会挨拶・趣旨説明

① 問題提起 法政大学キャリアデザイン学部教授 児美川 孝一郎 氏

「若者の就職をめぐる現状と中小企業への期待～中小企業に求められるキャリア教育と社員教育」依存的な若者をどう自主的に動くようになってもらうか。悪戦苦闘。しかし、少数だが感度が高い学生もいる。

1. 「若者と雇用」をめぐる状況

高卒で7割が専門学校、大学へ進学。高卒就職は10%台。何故、大学生が増えたか。①規制緩和で定員を増やすことができた。②入試も楽になった。③高卒就職が難しくなった。高卒求人数が減っている。大学は入りやすくなっているが、中退が増えている。4年で1割が減っている。大学中退は就職が難しい。私大で6万人。何故中退か。1位学力不足。2位進路のミスマッチ。3位経済的理由。大学側も辞めさせるわけもいかなないので、リメディアル教育=大学に入って

から高校までの学習の補習を行う。大事な事をメモとることができない。うんうんと頷いていても理解していない新人が多い。メモが取れるようになるには1年かかる。学生は、早く大人になりたいと思っていない。曖昧なまま社会人になっている。大学卒業しても正規に就職している割合3人に2人。4分の1は就職していない。離職率3年以内に3割は辞めている。高校卒業100人が大学卒業し3年後正規雇用者として社会人になっている人数は44人。バブル前は80人だった。

2. 今年のシューカツ戦線

経団連のガイドライン「無力化」。企業は守っていない。大学3年8月以前にインターシップを行い、内々定を決めている。面接ではなく面談?売り手市場。

3. 若者たちの意識と価値観

高校生がフリーターをどうみているか。5割がフリーターを許容的。18.9%がフリーターにならな

い。8割が自分はフリーターになるかもしれない。という意識。よってちょっと辛くなるとそうになってしまう。なりたい仕事が5割しかいない。就活中何が不安？5割以上がそもそも就職できるかどうか不安。勉強しない。勉強嫌い。授業以外の勉強時間は小学生より短い。日に30分程度。姿勢は受け身。興味がなくても単位が取れる授業に人気。ゼミが嫌で講義がいい。ディスカッションが嫌。家庭でも学校でも手助けしてくれると思っている。学生は賢い。何もしなかったら助けてくれると思っている。そんな学生が企業に入ってくる。高校でダメな人間は大学に入っても同じ。高校でがんばった人間は大学でもがんばる。大学3年で将来なにをすべきかわからない。自分の将来は明るい？55%は明るい。努力もしないで明るい、出来ると思っている。挫折、失敗経験がない。よって出来ると思っている。日本は暗いと思っている。理想の大人はいるか17%。83%が理想の大人がいない。大人のなり方がわからない。半分以上の学生は社会人としてのビジョンが描けていない。

価値観－努力するより今が良ければいいじゃないか。未来の為に今を犠牲にするのは嫌。大手志向から中堅・中小企業が5割超えている。まともな感覚になっている。

就職観－人の為に仕事をしたい。いつやっても楽しく働きたい。働くというのがつらいとわかっている。

4. 中小企業への期待

日本的雇用が底を割り始めている。非正規化、ブラック化。若者は出番を待っている。じっくり丁寧につき合わなければならない。処遇とか目に行くが、バランスで決める。やりがいと社会への役立ち。仕事をきちんとやるということではなく、何のための仕事か。それに答えられること。職場の人間関係がよい。大手はそぎ落ちている。余裕がなくなっている。新人の指導ができない。人を育てる為には、時間も労力もコストもかかる。経営者の覚悟が必要。だからこそ育て切ることが必要。本気で雇って本気で育ててほしい。覚悟だけでなく工夫も必要。何故、何のために、何の意味がある？誠実に応答。関係をつくってからこそ、叱る、要求することが必要。異なる価値観はダイバーシティ。今後の日本は成長社会ではなく、成熟社会。成熟社会では価値観が違うのが当たり前。中小企業の魅力を地域に発信してほしい。

② 実践報告 愛媛県中小企業家同友会 専務理事

鎌田 哲雄 氏

「愛媛同友会の産学官連携と

“生きる力を育む教育”」

1. 愛媛同友会はなぜキャリア教育にとりくむのか

1994年中学校の職場体験。学校の先生が社員教育は地域の為にやっているという取り組みに驚かれる。中小企業の発信不足を感じる。タテからヨコへのものの見方が必要。川下から川上へ登っていく運動。20年間の歩み。組織と連携して生きていくという確信。地域にとってあこがれの存在である。競争ではなく競創。

①社会教育運動

②プロデュース活動(事務局長)

③同友会があらゆる企業と連携

地域ぐるみで人育てが必要。

条例はハード。ソフトが必要。ソフトが何か？

人育て応援部会。

キャリア教育の手引き。生きる力を育む教育。

2. グループ討論

「同友会らしいキャリア教育、共同求人、社員教育のあり方とは」

・まとめの発表

大学に入るまでの育ち方と、社会人に求めるギャップ。社会に適用するように対応しなければならない。

大学に入るまでの育ちに、どう関わっていくのか？

同友会の関わり。理想の大人をどう育てるのか。

人が原点、一人ひとりが社会で生きていく力をどう育てるのか。

同友会そのものが主体的に発信する。共に育つ知見を広めていく。

何故共同でやらなければならなかったのか？

共同求人を踏まえながら一貫して人を育てる

経営観が問われる時代になった。ベースとなるのが経営理念、経営指針である。

●所感

児美川先生の問題提起から始まり、愛媛同友会の取り組み、グループ討議、その後社員教育委員会会議と、内容盛りだくさんで中身が濃いものでした。

問題提起では、人材不足という現実と更に学生の意識・価値観など現状を理解できました。と同時に、企業内における教育する側の覚悟も必要だと感じました。まさに教えるという事ではなく、共に育つという共有が必要であり、人財の格差が企業格差になると改めて実感した学びでした。

最後に、愛媛同友会、グループディスカッション、そして社員教育委員会を通して感じたことは、社員教育が地域貢献になる、というものでした。その為にも、他県で先進的に取り組んでいる経営者と幹部、経営者と社員が同じ時間で学ぶ、土壌づくりが急務になってきているように思いました。

(文責 共育委員長 土井 幸喜)

女性部会・障がい者問題担当委員会 企業訪問 参加報告

訪問先：(株)ミヤタ(大村支部 宮田正一会員) 日時：9月17日(木) 13:00～14:30

訪問者：中村こずえ、浦川公己好、永吉誠、永吉杏奈、菅原千代枝(敬称略)



宮田さんは、8月下旬から知的障がい者の雇用を始められました。きっかけはハローワークで求人を募ったところ、思うような人材に縁がなく、困っていた矢先、ネットの求人を見た障がい者就労支援施設の指導員である丸山さんに声をかけていただいたそうです。丸山さんから受け取ったAさん(24歳・女性)の詳しいプロフィールをみてトライアル雇用としての採用を決めたそうです。

Aさんは丸山さんと一緒に仕事を覚え、少しずつ時間を増やして仕事に慣れていったようです。Aさんには持病があったため、宮田さんや丸山さんの不安はあったようですが、一度、休憩中に持病を発症した際、周りのパートさん方の対応がたいへんスムーズで、大事に至らなかったため、持病の心配はここで打ち消されたそうです。あとはAさんの仕事への意欲が問題でした。このまま続けて仕事ができるだろうか…と心配はあったものの、Aさん自身が自分と戦い、続ける事ができたようです。

Aさんの仕事振りを見学させていただきました。他のパートさんと一緒に包丁で野菜を一定の大きさに



切って、不要なところは捨てるという作業でした。他のパートさんとは全く引けを取らない動きでした。

Aさんは背が高いため野菜を切る台が低くなってしまったため、まな板を何枚も重ね、切りやすい高さに工夫されていたところに宮田さんの温かさを感じました。仕事が終わった後のAさんは、会社と仕事に慣れたようで、とても落ち着いた表情でした。宮田さんは、雇用して本当によかったと思われています。

今回の雇用に繋がった大きな要因は、就労支援施設の丸山さんの、Aさんと(株)ミヤタへの配慮や熱い思いに宮田さんが胸を打たれた事だと思いました。もちろん宮田さんが、全社員さんのことを第一に考え、会社として生産性の均一化に取り組むことを明確に掲げた結果であることは言うまでもありません。

宮田さん、お忙しい中本当にありがとうございました。

(文責 女性部会・障がい者問題担当委員会
障がい者問題担当副委員長 菅原 千代枝)

九州・沖縄ブロック 事務局長会議 参加報告

9月17・18日(木・金)、熊本での九州・沖縄ブロック事務局長会議に参加しました。鹿児島同友会、佐賀同友会からそれぞれ課題の今後の方向性に関する事例報告をいただき、九州・沖縄全体の課題として意見交換を交わしました。

その他、ブロックでの取り組みに関する確認、11月の代表者会議に提案する内容なども確認されました。

中同協からの報告に関しては団体割の値上げ、行事のあり方についてなど積極的な議論が交わされ随時代表者会議、幹事会へ提案する流れとなります。今後検討された内容に関しては随時理事会等を通して会に発信していきます。

(文責 事務局 峰 圭太)

セミナー 参加報告

職場のメンタルヘルス対策セミナー参加報告

開催日：9月3日(木) 14:00 会場：長崎ブリックホール

12月より義務付けされることでストレスチェック制度が話題になっています。

現在、国民の12人に1人は精神疾患があり、40人に1人は自殺で亡くなっています。また、精神疾患になると免疫力の低下によりがんによる死亡率も上がり、糖尿病や心筋梗塞にもかかりやすくなるため、メンタルヘルスは心だけの問題でなく、体への影響を及ぼすものであり、身近な問題として考える必要があります。

そして12月から始まるストレスチェック制度の義務化ですが、労働者が50人以上の事業者が義務化となっており、50人未満の場合は努力義務になっています。

具体的な内容として労働者のストレスの状態を知り、ストレスをため過ぎないように対処したり、ストレスが高い状態の場合は医師の面接を受けて助言をもらったり、会社側に仕事の軽減などの措置を実施してもらったり、職場の改善につなげたりすることで、うつなどのメンタルヘルス不調を未然に防止するための

仕組みとなっています。

ストレスチェックは毎年1回実施すればよいので、2015年12月1日～2016年11月30日までに実施をすればよいのですが、ストレスチェックを行う医師が少ないとの情報もあるため、早期の準備が必要となります。

また、どうしてもストレスチェックを行う医師が見つからない場合には、ネットのサービスを利用して産業医と連携をしていくという方法もあります。

導入にあたり、企業にとっては負担が増えることにはなりますが、社員の方の不調や重大な事故を未然に防ぐことは中小企業にとって大きなメリットになることですので、労働者数50人未満の事業所でもぜひ取り組みを検討ください。

当日のセミナーの資料は事務局にございますので、ご興味ございましたらお気軽にお問合せください。

(文責 事務局 田口 友廣)

マイナンバー制度開始まで何をすべきか参加報告

開催日：9月7日(月) 14:00 会場：長崎商工会議所

長崎支部浦上地区会 植木博路会員がコーディネーターを務め、パネリストからマイナンバー制度開始までにどのような準備をするべきか、マイナンバー制度運用開始後にどのような点に注意しなければならないかをお話いただきました。

2016年1月より、社会保障、税、災害対策の行政手続きにマイナンバーが必要となります。マイナンバー制度は行政が効率化し、国民の利便性が高まり公平・公正な社会を実現する社会基盤と言われています。

企業としては税務・社会保障等の申告書などにマイナンバーを記載して提出をしなければなりません。そこでまずは社員とその扶養家族の番号を収集し番号確認と身元確認を行い、その際にどういう目的で使用するのか明示する必要があります。(マイナンバーには利用、提供、収集の制限があり、法律に規定されたこと以外には使用することができませんので、注意が必要です。)

そしてマイナンバーの適切な安全管理措置に組織としての対応が必要で、企業は基本方針と取扱規定等を策定しなければなりません。具体的には①組織的の安全管理措置(責任者の選定等)②人的安全管理措置(マイナンバーの取り扱いに関する教育等)③物理的安全

措置(マイナンバーが記載される書類を保管するロッカーに鍵をかける等)④技術的安全管理措置(パソコンにはログインする際にパスワードを設定等)。詳細に関してはマイナンバーのガイドラインが特定個人情報保護委員会より示されています。ガイドラインの中で「しなければならない」「してはならない」と記載されていることに従わなかった場合は、法令違反と判断されることがありますが、「望ましい」との記載に関しては違反をしても直ちに法令違反とされることはありません。しかし社員が悪意を持ってマイナンバーを不正漏えいさせた場合であっても、ガイドラインに沿った安全管理措置がなされていない場合は、両罰規定として事業主も罰せられることがあり、企業イメージの低下にもつながるリスクもありますので、ガイドラインをしっかりと確認ください。

情報漏えいを防ぐために対策ツールの導入や組織作り、教育などの様々な対策が必要となりますが、これはマイナンバー制度の実施に備えるだけでなく、社内のコンプライアンス意識の向上や社内環境の充実にもつながることですので費用対効果を考えながら検討ください。

最後に「マイナンバー」で検索しますと内閣官房の

ホームページがあります。その中にはガイドラインの他にも詳しい情報も掲載されておりますので、ぜひご覧ください。また、セミナーの資料は事務局にて保管しておりますので、ご興味ありましたら事務局までお

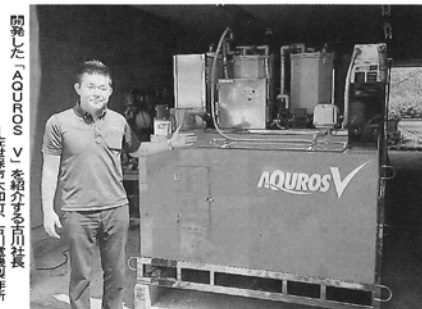
問合せください。

(文責 事務局 田口 友廣)

会員活躍

「活イカ」運搬密度 2倍

古川電機製作所が装置開発



開発した「AQUROS V」を紹介する古川社長
佐世保市大町 古川電機製作所

特許の浄水技術を採用

同社の古川健社長は「関東など遠隔地への市場にも生きたままのイカが出せるようになり、販売価格も上がる。本県のイカ産地の振興につながる」と話している。(宮本幸)

トがかわるため、遠隔地には魚価が低い「鮮魚」や「冷凍魚」として出荷しているのが現状という。装置は幅1.7メートル、奥行き1.5メートル、高さ1.85メートル。水槽容量は830リットルで、イカ50匹の輸送が可能。アノモニアを電気分解して活性炭で浄化したり、イカ墨を泡として除去する特許技術を導入した装置を搭載。アオリイカの24時間後の生存率は95%以上、ケンサキイカの場合は15時間後の生存率が95%以上になるといふ。

販売価格は800万円、導入コストは活魚輸送車の3分の1となるという。同社は10月から漁業関係者のほか、輸送業者や飲食事業者などに本格的に販売していく考え。

イカはほかの魚類に比べ、水質の悪化やストレスに極度に弱い。アノモニアの排出量が多く、吐く墨の影響で死ぬこともあり、輸送には水質悪化を防ぐために大量の海水が必要となる。このため一度に運べる量が少なく、輸送コストがかさむ。古川電機製作所(佐世保市)は、イカを生きたまま高密度で長距離輸送ができる装置「AQUROS V」を開発した。県工業技術センターと県総合水産試験場と共同で特許を取得した浄水技術を採用。活魚輸送車では水槽容量に対する密度が2〜3%での運搬が限界だったが、装置では倍の6%で運搬ができる。

長崎新聞 9月5日
大村支部 山口 成美 会員

長崎新聞 8月27日
北松浦支部 堤 直司 会員



ブドウ狩りを楽しむ家族連れ
＝大村市今富町(荒木勝郎撮影)

農家と連携ブドウ狩りで活性化

「フルーツの里」と呼ばれる大村市福重地区で、農業の6次産業化に取り組むおむら夢ファーム・シユシユ。地元農家と連携した旬のブドウ狩りは家族連れを中心ににぎわう。年間を通じて農家民泊にも取り組み、キュウリやブルーベリーの収穫体験もできる。約16万人を集めた。(綿川昂介)

―社業は。北松佐々町市場免と佐世保市大野町の2店舗で家具、生活雑貨を販売。2店を統合する形で9月19日に佐々町をリニューアルオープンし、大野店は9月30日で営業を終えます。リニューアル店では大型家具など30点以上を用意。商品は品質に定めて独自に5段階で評価。その評価を星で表示して販売します。プロの目から見ると、同じような家具でも工場の品と品質に差があり、塗装などの仕上げ具合が違います。国内外の工場を

スタイルマート社長
堤 直司さん(53)



生活に合った商品提案

提案しながら、より良いものを仕入れるよう心掛けています。―業界を取り巻く環境は。この30年来、業界は値下げ競争を続けてきましたが、昨今の円安で資材や輸入商品の高騰が続く。値上げは避けられない状況です。メーカーへは価格以外の付加価値を求めながら、今以上にお客さまの年代や目的に合ったライフスタイルの提案をしていきたいと思います。

株式会社スタイルマート(北松佐々町市場免) 1955年に福岡県大川市で創業。2007年に現在地へ移転。08年に法人化した。現在社名。資本金300万円。従業員は15人。

事務局企業訪問



今期から支部長を務められている五島支部 辻 千穂子さんの企業を訪問させていただきました。

今年1月、辻さんは五島支部例会において初めて経営体験報告をされました。お父様が設立された会社、2人の息子さんの出産。順調にも見えた人生はご両親の他界、ご自身の離婚、2人の息子さんの不登校など大変な苦勞をされてきました。今回の企業訪問では例会時に伺えなかったことをお聞きする事ができました。

【会社改革】

タクシー業界は社員の拘束時間も長く、大抵の会社が歩合制という給与体系のため、どうしても「お金を追う」傾向にあるそうです。

しかし高齢化が進む五島という土地柄、お客様が下車してすぐ次のお客様を探す事よりも、下車した高齢のお客様を玄関までお送りする、荷物を運ぶなど、「信用を追う」ことに取り組まれています。2013年には福江市内から少し離れた富江地区のタクシー会社が撤退した事を受け、富江地区のタクシー利用者が困るのではないかと、思い駐車場を別に借り3台のタクシーを常駐させることにしました。採算優先ではなくお客様のための行動です。その結果お客様からは「観光さんのタクシーに乗りたい」という声も多くいただけるようになったとのこと。勤務体系も改善に着手し、65歳を超える社員の協力もいただき、全体の拘束時間を減らすと同時に収入を増やすという体制も10月から実施されます。これは今後社員(乗務員)の確保がますます困難になるであろうとの危機感からの改革で「その考えの根拠は同友会での学びなんです」と話されました。

【観光する人の気持ちになれる五島】

辻さんは以前から「五島八十八か所」を来島の柱とす



る活動もされています。納経帳を自作し全国から巡礼者を招き、全てを徒歩で巡礼する事はできないため移動にタクシーを利用させていただくものです。きっかけは不登校だった息子さん(次男)。2007年にあるきっかけで息子さんが福岡の八十八か所を巡り非常に感銘を受け、翌年半信半疑で辻さんも巡礼。自分の足で息子さんと歩き

お参りすることで心が洗われたそうです。「地域で守ってきた御堂は五島にもある、これを観光の柱に」と当初は考えましたが、活動を続けていたある時、毎年巡礼に來られていた方から「私たちは観光に來ているわけではない。ただ静かに安らかに手を合わせただけだから説明や記念写真は要らない」と教えていただいたそうです。観光ではなく目的を持って来島する姿勢に辻さんは考えを変えます。「観光、巡礼、帰郷、出張など様々な理由で来島するそれぞれの方の気持ちになれる五島でありたい、心の中や人の深さを理解できる人になりたい」これは例会での経営体験報告でもあった「よるべ」になりたいという辻さんの変わらない姿勢であると感じました。

【同友会と辻さん、そして今後】

2012年から支部設立に向けて準備が始まり一番早くチャーターメンバーとしての申込書を書かれた辻さん。グループディスカッションで自分の意見や考え述べ、他の経営者の意見や考えを聞き互いに認め合い高めあう同友会を心から頼りにし、「私には同友会しかないんです」という言葉には、ご自身がもっとよい経営者になり、よい会社になりたい、そして人口減が進む五島を同友会の仲間と盛り上げていきたいという強い思いを感じました。

現在関東で働く息子さん(長男)に数年後事業承継する予定の五島観光タクシーは来期で60周年を迎えます。今年2月開催の経営指針策定セミナーで経営指針づくりに取り組み、次のセミナーにも参加予定の辻さん。この60周年を機に全社に経営理念をはじめとした経営指針を発表できるよう経営者として学び続ける両肩には母として、経営者として、また支部長としての責任と覚悟があります。その責任と覚悟の重圧は同友会の学びを通して今後きっと一つずつ形になり実を結ぶと信じています。

(文責 事務局 峰 圭太)

FAX : 0959-72-4551

(敬称略)

11月例会案内

(掲載がない支部地区会は経営フォーラムを例会に充当)

●大村支部

日 時 11月19日(木) 18:30
会 場 長崎インターナショナルホテル
テ - マ 例会の魅力を探る
～新入会員に伝えたい! 同友会例会の魅力～
報 告 者 未定

●諫早支部

日 時 11月13日(金) 19:00
会 場 諫早観光ホテル 道具屋
内 容 大懇親会祭り
～来てみらんね。家族(なかま)になろうよ～

●島原支部

日 時 11月16日(金) 19:00
会 場 HOTEL シーサイド島原 or
島原市霊丘公園体育館 大会議室
テ - マ 良い報告から良い学びを得るために
～最小の時間でも最大の学びを得よう～
報 告 者 上田支部長 以下 支部役員

与えられた時間内で報告を終える事も報告者の学びですが、シミュレーションを重ねても伝えたい想いが熱い故に、報告予定時刻を超えてしまう事がままあります。報告から得た学びを皆で共有し、自社経営に活かしてこそ同友会、良い例会となり得ます。ですが討論中はグループ長の手腕に頼る部分も大きく、時間が足りてないのが実情です。今回は共通認識(卓長心得)を学んだ後にデモ報告、その後に参加者全員が卓長を体験し、短い時間でもしっかりと意見交換が出来る事を体験学習していただきます。卓長の立場で参加してこそ得られる学びは大きく、経営者として組織運営に大変有効です。Time is money 時間のコントロールと共に、場の掌握術などを学んでみましょう。

第22回 経営フォーラム 2015 in kitamatsuura

人を活かし、企業を創り、
地方が輝く!

日 時 11月6日(金)

会 場 松浦シティホテル
松浦市志佐町浦免 1782-1
TEL 0956-72-5000

サブ会場 漁村体験センター(松浦市志佐町庄野免 226-30)
生涯学習センター(松浦市志佐町浦免 1483-1)

参加費 7,000円 (懇親交流会費含む)

タイムスケジュール

受 付 12:00～
分 科 会 13:00～
全 体 会 16:30～
記 念 講 演 17:00～
懇 親 交 流 会 19:00～

記念講演

講 師 衆議院議員 山本 有二 氏

■講演趣旨

地方の事業主は、大学卒の息子を跡継ぎにしなくなりました。都会が就職も結婚も生活もすべてに優越していると感じ込んでいるのです。これによって、親と子は別居、盆暮れ以外会うこともありません。これが常識という非常識な呪縛にかかっている日本人。今こそ魔法を解き放ち、親子三代、温かい生活を実現する地方創生の豊かな時代を創ることが急務です。EUの牽引車ドイツ、世界経済のリード役米国など、一極集中は全くありません。歴史、文化、自然、住み慣れた町に魅力を感じて当然なのに、なぜ日本では感じる事ができないのでしょうか。『家族を愛し、郷土を愛し、国を愛す。』その思いを取り戻すだけで、必ず地方は、元気になるます。

■略歴

1952年5月11日高知県に生まれる。
早稲田大学法学部卒業。弁護士開業後、高知県議会議員を経て、1990年衆議院議員初当選。
現在9期目(高知二区)。この間、数々の役職を歴任し、2013年1月、『無派閥連絡会』を結成、代表世話人。
現在63歳。趣味は水泳、テニス、カヌー、ゴルフなどアウトドア全般。

■現在の役職

<衆議院>
予算委員会委員
<自由民主党>
ITS推進・道路調査会長
農林水産業・地域の活力創造本部長
税制調査会副会長 (2015年7月現在)

長崎同友会ホームページリンク集 会員企業掲載募集

長崎同友会のホームページ (<http://www.nagasaki.doyu.jp>) 内のリンク集がリニューアルし、会員企業のホームページをリンク集に掲載できるようになりました。

掲載方法は2種類あります。

- テキストリンクでの掲載
- バナーリンクでの掲載

(※会員企業 HP に長崎同友会 HP のバナーリンクをお願いいたします。また、会員企業のバナーには社名を必ず明記して下さい)

ホームページのリンク申請ページ

(<http://www.nagasaki.doyu.jp/request>)

より、ぜひお申込み下さい。お待ちしております。



10月理事会 議事録 抜粋

10月1日(木) つくば倶楽部

開会挨拶-松尾代表理事

役員研修会大変お疲れ様でした。参加者が少なかったことが残念ですが内容は充実していたと思います。先程の仲間づくり委員会にも参加いただきましたが7週間後のワンデーに向けて各支部目標を設定しました。経営フォーラムに向けて会場が満杯になり成功することを願います。

仲間づくりについて

入会・退会の承認について-8名の入会、4名の退会を承認

杉本仲間づくり委員長総括-

本理事会前に委員会を開催し、11月19日の県下一斉キャンペーン(ワンデー)に向けての各支部目標人数を確認しました。その日だけがキャンペーンではなく今も進行中ですので達成に向けてよろしく願います。

協議・承認事項

1)第22回経営フォーラムについて

(前回までの決定事項)

組織図

日程:2015年11月6日(金)

会場:メイン会場…松浦シティホテル

サブ会場…漁村体験センター、きらきら21生涯学習センター

記念講演者:山本有二氏・テーマ「人生をかし、企業を創り、地方(まち)が輝く!!!」

・第1分科会(経営指針づくり)…

(株)愛しとーと 代表取締役 岩本 初恵氏

・第2分科会(経営環境)…平戸市長 黒田成彦氏

・第3分科会(事業承継)…大村支部 林田雅博 会員

・スケジュール

13:00~分科会 16:30~全体会 17:00~記念講演

19:00~懇親会 20:30 終了

・送迎バスについて…各支部で見積もり、手配、停留所を調整する

方向。またバス担当者を置く

・各支部キャラバンの担当を置く

・座長、室長について

第1分科会/座長:松永いづみ会員

室長:末次精一 会員

第2分科会/座長:宮田 正一会員

室長:堤直司 会員

第3分科会/座長:首藤 洋一会員

室長:上谷直人 会員

・支部動員目標(9月30日現在)

	長崎	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
会員登録目標	80	25	20	20	60	35	10	250
会員登録実績	40	15	11	5	17	37	5	130
オ	2	0	0	0	0	8	0	10
ブ								
合 計	42	15	11	5	17	45	5	140

・案内チラシ

(今回提案事項)

・記念講演謝辞を金井副代表、万歳三唱を辻村副代表へ依頼

→上記を確認

・詳細予算内容

→詳細の予算案を承認

・バスについて、各支部からのバスは11時50分着とする。グループ長研修を当日40分程度行う予定。

※9月以降もキャラバンの予定があるため、その際はよろしく願います

※再度各支部目標人数達成に向けての意思を確認

2)役員研修会について

・9月26日(土) 13:30~諫早観光ホテル道具屋

→当日の各グループ発表のまとめを確認。支部役員会にて確認、取り組んでいただく

(参加者の感想)

・参加者が少なかったことが残念だが内容は充実していた

・あらためて同友会の良さがわかった

- (事務局峰次長より)
グループ発表のまとめから、例会出席率の向上、島原支部の小グループ活動、スポンサーやその他の会員さんと同行しての企業訪問など各支部、地区会で今後の活動のヒントになる部分があると思います。ぜひ支部・地区会役員会で出来ることを検討いただきまた理事会でご報告をお願いします
- 3)2017年中同協役員研修会、2019年全研開催地について
(前回理事会より)
長崎市を開催地としてホテルニュー長崎をメイン会場として設営するという三役会案を受け、各支部開催地としての検討をいただく
(三役会案)
各支部からの協議結果を受け全研に関しては長崎あるいは佐世保で開催する方向。佐世保支部に関しては開催できるかどうか結論を出していただき11月理事会で最終決定とする。また開催までのロードマップを事務局で作成する。役員研修会に関しては大村あるいは佐世保で調整する。11月理事会で各支部草案を出していただく。また上記に関して他県の開催結果(収支)を参考に動員人数、会費等判断材料を事務局より支部に提示する
→(全研に関して)
・出口支部長より、毎回長崎での開催も多いため佐世保開催でもいいのではないかと
→(中同協役員研修会に関して)
大村、佐世保開催で検討するという三役会案を承認
(総じて)
三役会案を承認
- 4)賀詞交歓会について
(三役会案)
1月12日の週に開催する方向性を理事会に提案。開催はホテルニュー長崎とする
→上記三役会案を承認。日程次第では12日の週に予定してある支部行事の変更を依頼する場合があるためご理解とご協力をよろしくお願いします
- 5)関東地方の義援金について
(三役会案)－松尾代表理事より
今期から過去の長崎同友会の義援金のあり方を見直した経緯を確認。役員会および例会等支部の行事にて義援金を募っていただく。最終的には事務局で集約しお渡しする
→三役会案を承認。
10月に行われる役員会や例会等支部の行事にて義援金を募り、事務局で集約してお渡しする
- 6)経営フォーラムについて
(三役会案)－松尾代表理事より
2016年度は大村開催で決定(2015年9月理事会決議事項)。2017年度以降について各支部の順番制とする。前提としてフォーラムを担当する事は支部の活性化、増強につながるという前向きなことからとらえていただき順番を決める際も立候補いただきたい
(意見として)
・フォーラムは順番に平等に支部で担当をするべき。
・2019年度開催予定の全研や支部の周年行事などの兼ね合いを考慮し検討したほうがよいのではないかと
(総じて)
本日の意見を参考に三役会にて協議、たたき台を11月理事会に提案

- 報告・連絡事項
1)9月 県本部・各委員会・各支部・各地区会等の活動状況について

2)例会について(更なる例会の充実をめざして)

3)中同協 主要行事の紹介

4)9月7日(月)マイナンバースンポジウム参加報告(田口事務局員)
2016年1月より社会保障等の行政手続きにマイナンバーが必要となります。ガイドラインをしっかりと確認し、適切な安全管理措置を検討下さい

5)9月8日(火)県産業振興ビジョン第1回策定会議(峰事務局次長)参加いたしました。2回目以降は宮田委員長に参加いただきます

6)9月10・11日(木・金)青年経営者全国交流会参加報告
(吉澤委員長、山口青経会長)
(吉澤委員長)昨年に引き続き山口会長と参加をすることができました。山梨は宝石業が日本一と言われているそうです。リニアモーターカーを見ることができ、ご当地のワインも堪能することができました
(山口会長)例年の青全交は一人か二人の参加ですが、今年は吉澤委員長と青経副会長の吉川さんと参加することができました。分科会では社内の委員会活動で会社が変わるという事例を学ぶことができました

7)9月17・18日(木・金)九州・沖縄ブロック事務局長会議参加報告(峰事務局次長)代表者会議での議題を協議しました

8)10月28日(水)財務事務所業務説明会参加者について
(峰事務局次長)宮田委員長に参加を依頼、承諾をいただいております

9)会費3ヶ月滞納者について－なし

10)その他

- 留意事項(長崎開催行事)
1)2017年 中同協役員研修会について－5月開催予定。今後は代表者会議で進捗を協議する

2)2019年中小企業問題全国研究集会(全研)について
ニュー長…立食1000名、椅子800名、分科会対応約5室
ベストウエスタン…立食1000名、椅子900名、
分科会対応最大6室
※中同協確認事項最大1000名(上限を設ける)でも全国大会開催可能
→三役会案：ランタンと重ねることは避けるべき。また他県の情報を収集中

閉会あいさつ－金井副代表理事
みなさんお疲れさまでした。会が巨大化し多様化しているように感じます。理事のみなさんも忙しくなっています。その一方で役員研修会・経営フォーラム・例会と参加者が少ないです。理事会で会員の方にどうしようかという取り組みが少ないのではないのでしょうか？だから出席率も低いのではないのでしょうか？もっと会員に目を向けた取り組みをしていきましょう

次回日程…11月2日(月) 場所…シーハットおおむら

会員消息

会 員 数 (10月1日現在)

	長崎	(浦上)	(出島)	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	252	138	114	81	81	60	141	55	30	700
期首	198	109	89	64	63	46	111	45	23	550
現在	192	107	85	65	69	48	117	47	25	563

退 会 者 (敬称略)

会 員 名	会 社 名	支部・地区会名	入会年月
福田 美香	(株)さくらネットワーク	長 崎 ・ 浦 上	2015年 5月入会
中島 忠男	経営開発(株)	長 崎 ・ 出 島	1987年 3月入会
原 幸生	弁護士法人佳朋総合法律事務所	長 崎 ・ 出 島	2015年 3月入会(交代)
吉永 正範	吉永コンサルティングオフィス	佐 世 保	2007年 9月入会